

学長からのメッセージ

より良き未来を
生きるために

～ 読書のすすめ ～



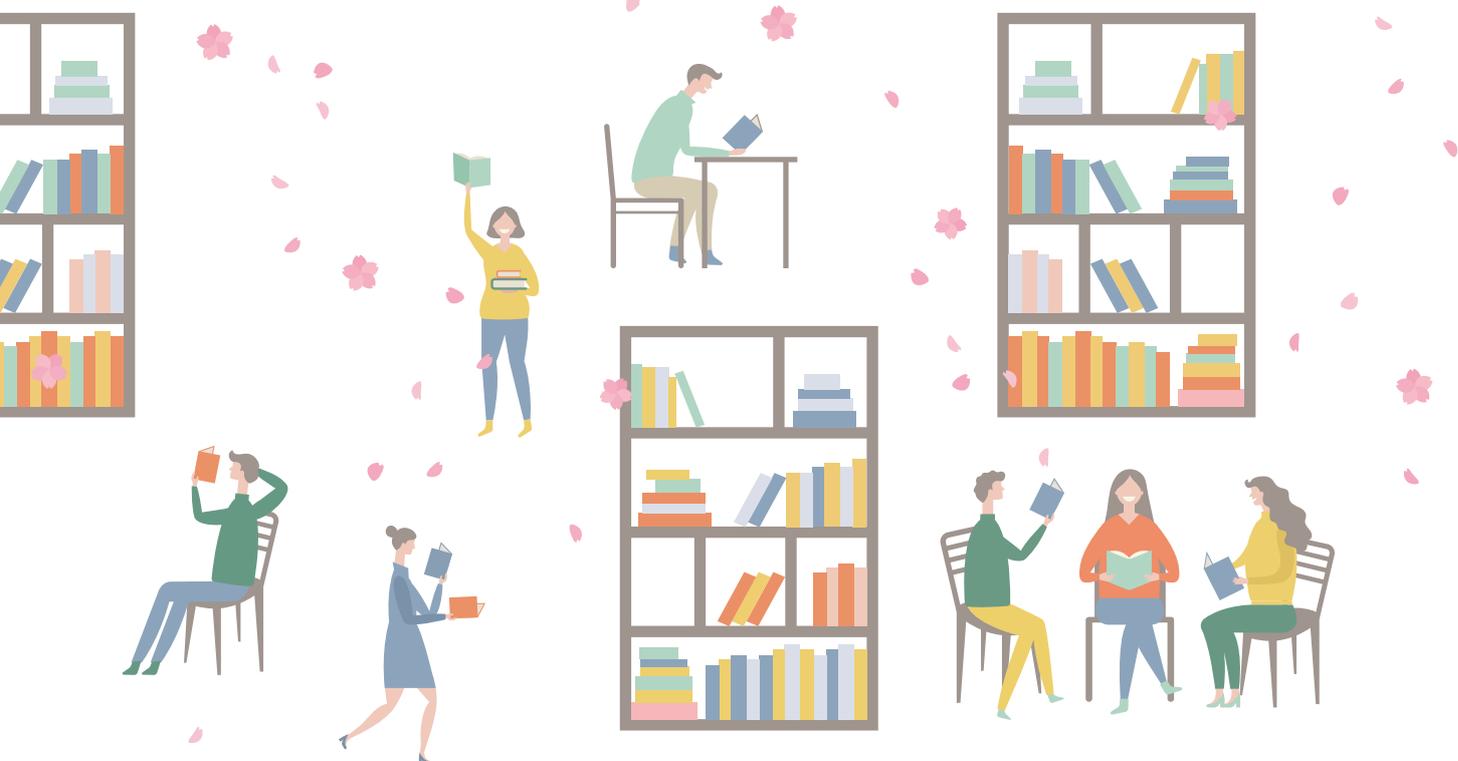
最近、日本経済新聞社から、「リーダーの本棚」欄への取材を受けました。私は、4年前の学長就任以来、本を読む時間もなく過ごして来てしまいましたので、その取材が自分自身の読書経験を思い出し、さらには好きだった本をまた手に取る機会となりました。

私の父は自分で詩を書くような元・文学青年でしたので、家には古今の様々な領域の本が溢れていて、私は幼い頃から、内容が分かるか分からないかにかかわらず、本棚にあるものを手当たり次第に読んでいました。また、父や母と本屋さんへ行って、美しい挿絵のある絵本を買って貰うのが楽しみでした。幼稚園児の頃に毎月届く「キンダーブック」や、世界名作全集や日本文学全集を何度も何度も読んだことや、それらの本が私の心にたくさんの夢を運んで来てくれたこと、そして、年齢を重ねるに従って異なるジャンルの本を読んで、多くのことを学んできたこと

に思いを馳せました。

振り返ってみますと、私はたくさんの本を読むことで、居ながらにして広い世界を知り、それらの本の作者や登場人物が生きてきた時間と体験を共有したつもりになって、気づかないうちに、多くの考え方や文化を吸収していたのだと思います。

母親になってからは、息子と一緒にたくさんの本を読みました。因みに、新聞紙上で紹介した私の愛読書のうち、『星の王子さま』、『銀河鉄道の夜』は、息子が小さな頃にも一緒に繰り返して読んだものです。その他、『チボー一家の人々』、『キュリー夫人伝』、『何でも見てやろう』、『死にゆく子どもを救え』などを紹介しましたが、様々な年齢で、また異なる社会環境下で、それらの本から多くのことを学びました。いつか、皆さんの愛読書について、お話を聞かせて頂きたいと思っています。



最近の若い人たちは、本を読まないということがよく言われています。実際に、たくさんの情報が溢れている環境で、ゆっくりと時間を使って読書することは効率が悪いと思う人たちも多いのかも知れません。でも、インターネットなどで簡単に手に入る情報ばかりに接しては、自分自身の価値判断に基づいて情報を評価し、取捨選択をすることや、じっくりと物事を考え、自分自身の中に確固たる「核」を作ることとは難しいのではないかと感じています。

お茶の水女子大学で、新たな学びの道を歩み始めた新入生の皆さんは、これからの大学生活において、今までとは異なるタイプの多様な領域の本を手にする機会が増えることでしょう。種々様々な本に出会うだけでなく、これまで考えたこともないような、多様な価値観に触れることにもなると思います。将来、多様な価値観と人々が交錯する社会で生きていく皆

さんにとって、多様性を包摂する本学のキャンパスで学ぶこと、そして、広い世界の様々な文化に触れることは、大きな力になることと信じています。

21世紀の輝かしい担い手である皆さんには、より良い未来を生きるために、人々が長い歴史の中で紡ぎ、蓄積してきた智慧の産物としての「本」を活用し、それらを基盤として創出されてきた文化を、大切にしていきたいと願っています。

2019年4月

お茶の水女子大学長 室伏 きみ子